

PURE

KeepPer®

ピュアキーパー

M-001

ピュアキーパー 施工マニュアル

KeepPer技研株式会社

(c) KeepPer Giken. All Rights Reserved.

はじめに

キーパーコーティングは1989年に、1種類のポリマーコーティングからはじまりました。

現在は、

- 3ヶ月サイクルで施工するポリマーコーティング「ピュアキーパー」と、
- 1年サイクルで施工するボディガラスコーティング「クリスタルキーパー」、「フレッシュキーパー」
- 3年サイクルで施工、もしくは1年に1回のメンテナンスで5年サイクルで施工するボディガラスコーティング「ダイヤモンドキーパー・Wダイヤモンドキーパー・ECOプラスダイヤモンドキーパー」が
- 3年サイクルで施工、もしくは2年(又は1年)に1回のメンテナンスで6年サイクルで施工するボディガラスコーティング「EXキーパー」があります。



7種類とも、車の塗装を劣化させず、新車時の状態をキープする「車のアンチエイジングのためのコーティング」として、施工されています。すべての基本となっている「塗装面改善の方向性」の理論は、特許として登録され、2007年度「グッドカンパニー大賞・新技術事業化推進賞」をいただきました。この特許に、現在の主流であるボディガラスコーティングを反映させ、新しい技術を盛り込んだ新たな特許が現在申請中です。



PURE **Keeper**

CRYSTAL **Keeper**

^{ECO} FRESH **Keeper**

DIAMOND **Keeper**

W DIA **Keeper**

^{ECO PLUS} DIAMOND **Keeper**

EX **KEEPER**

【塗装はコーティングより強いのが当然】

現代の車に施されている「塗装」は、数々の改良と進化によって、車をサビなどから守り、美観を作り出す意味では、現状最高であり最強です。何層もの塗料が一体となって硬化している塗装よりも、後から手塗りなどで上乘せたコーティング被膜の方が強いとは考えられません。

それは一部の攻撃要素に対しては塗装よりも強いと言われる無機物でできたボディガラスコーティングでも同じことで、あらゆる環境に対する耐候力、美観、復元力、修復の利便性など総合的なバランスにおいて現代の塗装が最強であると言えます。



【それでも塗装は、劣化していく】

塗装は、強い。

それでも塗装は、日常生活の中で破壊力の強い紫外線にさらされ、PH5.5にまで下がっている酸性雨を浴びています。黄砂を含んだ雨は、塗装に食いついて美観を大きく損ねる「ミネラル」をたっぷり含んでいます。しかもこの黄色い雨は、春先だけのものではなく年間を通して降るようになりました。

また塗装は、走行中の空気やホコリとの摩擦、洗車ごとにブラシや手で擦られ、年々劣化していくことはなかなか防ぐことはできません。

● 塗装の劣化事例1



劣化した塗装が粉化したボディ。触ると、分解された塗装の成分である樹脂や顔料が指などにくっついてしまいます。

● 年中降るようになってきた黄砂を含んだ雨



● 塗装の劣化事例2



一部にカバーをかけて、劣化の姿を比較。カバーをした方の塗装(左半分)にはツヤは残っているのに、カバーしていない方(右半分)は完全にツヤびけし、白ボケしてしまいました。

コーティングの本来の役割とは？

【塗装の“身代わり”になって塗装を守る】

コーティングは塗装保護のための「犠牲被膜」である。これが私たちの考え方です。


塗装の上に被せられたコーティング被膜は、紫外線、酸性雨、黄砂を含んだ雨、ミネラルを受け止め、あらゆるものからの摩擦を受け、塗装の身代わりとなって傷み汚れることで、塗装を守ります。

【コーティングは容易に入れ替えられることが重要な要素】

そして重要なのは、塗装の身代わりとなって傷んだコーティング被膜を、再施工やメンテナンスによって「容易に入れ替えができることがコーティングの大切な要素」です。

ここが「コーティング」が「塗装」と最も違うところなのです。

最も大切にすべきは「新鮮な塗装」であって、コーティングはそれに勝るものではなく、塗装の上で自らが犠牲となって傷み、汚れ、定期的に入れ替えられるべき「犠牲被膜」だからこそ、コーティング本来の役割を果たせると考えます。



最も大切にすべきは、「新鮮な塗装」。
塗装を自らが犠牲になって守ることが
コーティング本来の役割です。

ポリマーコーティング

PURE KeepPer

ピュアキーパー

【繰り返し施工で被膜を入れ替え、塗装面を改善】

ピュアキーパーはポリマーコーティングであり、他のポリマーコーティングと同様にジメチルポリシロキサンを主成分としたコーティング剤です。

ピュアキーパーは、3ヶ月間に塗装の身代わりとなって傷み、表面が汚れた被膜を、3ヵ月後に、全く同じコーティング剤で作業することによって被膜の一定部分を入れ替え、常に新しいコーティング被膜が表面に出て美観を維持します。

ピュアキーパーのポリマー被膜は連続した緩い分子結合を持っているので、油性分を持った汚れが中に浸透せず表面にとどまるため、

被膜全体を除去することなく一定の部分を入れ替えること、
つまり直接塗装を摩擦することなくコーティング被膜を更新することができます。

また、繰り返し施工することで被膜が強化され塗装表面の美観が改善されたように見える効果があります。

この仕組みが「塗装面改善の方向性」として1993年に特許登録されました。

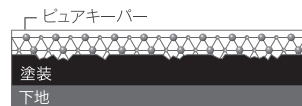
1 まずは洗浄と汚染除去

洗車してから塗装にこびりついた汚れを、やさしくトコトコ取ります。鉄粉やしつこい水アカもプロの技で除去します。(オプション)



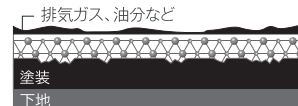
2 コーティング

キズを埋め、汚れをしみ込ませない高分子共重合体(コ・ポリマー)の被膜をつくることで塗装本来のツヤがでて新車ようになります。



3 しばらく走っても 汚れがしみ込みません

外気に触れ、雨に打たれて汚れはつきますが、被膜の上に乗ったままでしみ込みません。洗車がうんとラクになります。



4 3ヶ月に1度の施工で 被膜が強化され 美しさがアップ!

3ヶ月に1度の施工をするたびにどんどん被膜が強化され、ますます美しさが増していきます。



塗装保護理論に対する特許 水垢落としに対する特許

(c) KeepPer Giken. All Rights Reserved.

PURE **KeepPer**

ピュアキーパー

施工時間 40分～1時間程度
(お待ちいただける時間で施工)

施工間隔 3ヶ月

被膜 ポリマーコーティング

水はじき 撥水

【ノークレームで年間300万台の実績。ロングセラー商品】

ピュアキーパーの施工は、常に水を使いながら行う独特の方法であり、洗車を含め約40分というお客様にお待ちいただける短時間で終了します。

主にガソリンスタンドで施工されている手軽なお車の手入れの方法ではありませんが、塗装の保護能力は高く、

繰り返して施工されるお車の塗装は新車同様のツヤを保持し続け、長年のリピート客が非常に多いのが特長です。

現在、全国約8,000箇所の施工店で、年間約300万台の施工実績を持つロングセラーの商品であり、年間を通じてノークレームを実現しているのが強みです。

特長

どんな車でも手早くキレイに

所要時間は待てる時間の40分から1時間程度。手早く、汚れをしっかり取り去り、疲れてしまったクルマのボディをよみがえらせます。ポリマー特有のしっとりとしたツヤが生まれます。



汚れがつきにくくなり、洗車も簡単

雨や雪が降ったときの汚れが減ります。撥水力にすぐれ、よごれても水洗いでサッと汚れ落ち、洗車回数もぐっと減ります。こまめにクルマをきれいにしたい方にぴったりです。



クルマの価値を守る

紫外線、酸性雨などによる攻撃から塗装を守ります。3ヶ月に1度、繰り返し施工することで疲れてしまった塗装がよみがえり、塗装の状態が良くなって、車の価値を向上させます。



社団法人 中小企業研究センター



「グッドカンパニー大賞
新技術事業化推進賞」受賞

アイ・タック技研株式会社(現 KeePer技研株式会社)は、そのもととなるキーパーシステムが評価され、2007年「グッドカンパニー大賞 新技術事業化推進賞」を受賞しています。

(c) KeePer Giken. All Rights Reserved.

施工早見表

※全ての作業は
日陰で行う方
がよい。



(c) Keeper Giken. All Rights Reserved.

施工早見表



ファイナル1 コーティング

目的 塗装面を保護被膜でコーティング

基本作業

対象車体色	オールカラー車
塗装面の状態	塗装状態がよければ、水洗い後「ファイナル1」で仕上げる。(水垢取り、埋め込み効果を兼ね備えている。) 塗装状態によりコーティングの定着が悪い場合は、下地処理等を行い「ファイナル1」で仕上げる。

作業上の注意

- ・適量を使うこと。たくさん使いすぎるとかえって仕上がりが悪くなる。
- ・劣化したゴム、プラスチックモールなどは極力触らない。白くなった場合はベストブラックを使用してキレイにする。
- ・ドアステップまわりの汚れ取りも心がける。
- ・ピュアキーパーの一番大切な作業となるのできちんと行うこと。

ブレーキダストクリーニング

新追加マニュアル



- ① 下回りのピッチやタールがひどい場合は、あらかじめ、**タールリムーバー**等で溶かして取っておく
また、ホイールの汚れ(ブレーキダストなど)は**ブレーキダストクリーナー**をかけて水高圧スプレーで洗い流すと汚れが落ちやすい。

P14を参照

手洗い洗車



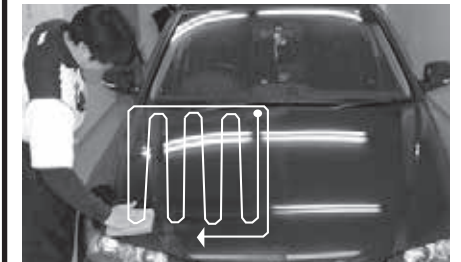
- ② 手洗い洗車が洗車機の水洗い洗車で泥やホコリを洗い流す
洗車作業後は必ず車を濡らしたままにしておくこと。

コーティング作業



- ③ 水をよくしぼったスポンジに適量(上から下までまんべんなく2往復)スプレーする。
(一本で約12台施工できる。)

新マニュアル



- ④ ポンネット半分程度に隙間無くきっちりケミカルを伸ばし、しっかりフチを決める。隙間無く伸ばさなければ被膜をはきちんと形成されない、よく注意しながら施工する。

きちんと手元を目で追いつながりながらコーティング作業を行う。
最初からしっかりとケミカルを伸ばさなければ水とケミカルとの反応が中途半端になってしまうためコーティングの効果が半減してしまう。

使用ケミカル

ファイナル1

特殊高分子共重合体によって、柔軟な被膜を形成しボディを強力に保護する。油性汚染を被膜内に浸透させず、すばやいクリーンアップを実現する。繰り返すことで、被膜改善を促進する。



スポンジ
赤

拭き上げ

新マニュアル

仕上げ確認



細かい所・フチの所もキッチリ手がたなを切るように!

- ⑤ スポンジをタテヨコに細かく動かし汚れを取りながら被膜を定着させる。



- ⑥ スポンジを裏返してコーティング被膜がきちんと定着しているかを確認しながら被膜カスを取り、しっかりとフチを決める。

全体に施工して



- ⑦ エアガンで隙間の水を追い出し、乾いた **快洗タオル** と水をつけ固く絞った **キーパークロス** を両手に持ってあら拭きする。



- ⑧ 最後に拭き残しがないか、**快洗タオル** と **キーパークロス** を用いて、確認しながら仕上げを行う。

スポンジを絞る

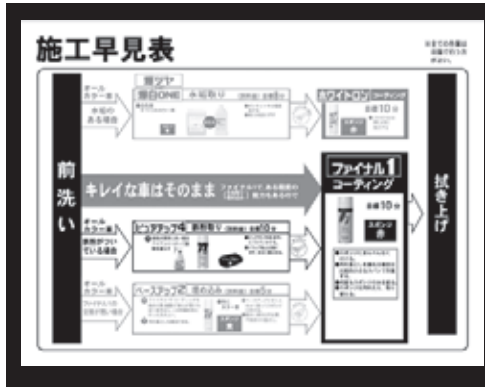
スポンジを絞る

・フチやへこみの部分はスポンジの上から指からおさえながらコーティング作業をおこなう。
手のひらの倍程度の重さが適度。
・部分的に水垢が残っている場合は **ファイナル1** を足して強めに汚れ落とし作業を兼ねながらコーティングする。
スポンジは汚れたら取り替えること。

・コーナーの部分で被膜の定着が悪い所は、スポンジのフチに少量スプレーしてこする。水分が無くなったらそれ以上コーティング作業をおこなわない。
・最後の仕上げの時、水垢の残りがあある場合はスポンジに **ファイナル1** を足して水垢を落とすこと。

※コーティングを施工する順番はP42「コーティング基本作業」を参照

(c) Keeper Group. All Rights Reserved.



鉄粉がついている場合 ピュアアップ4 鉄粉取り

目的 固着物（鉄粉等）を除去する。
（ついていればする。無ければしない。）

対象 車体色	オールカラー車
塗装面 の状態	鉄粉が ついて いる。



使用ケミカル

ピュアアップ4

ピュアアップ4は特殊な化学能力を持ち、
鉄粉除去時の強力な補助剤になる。

道具

トラップ粘土

塗装面に極力傷を入れずに、固着異物だけを
除去する為の特殊な構造を持った粘土。

注意 地面に落としたり使用しないで
捨てる。汚れた粘土は車に傷がつく。

トラップ粘土
青

※鉄粉が多い場合には事前に
アイアソーター 処理(P13)をしておく。

① 水洗い洗車

② 濡れた塗装面に**ピュアアップ4**を
1スパンかけて手で伸ばす。



③ 30～40cm四方を1ブロックとし
1ブロック内を隙間なくタテヨコに
粘土ですばやくこする。



タテヨコ1回ずつこすって、鉄粉が取れたか手で
確認してから次にすすむ。

④ 1ブロックずつ全体に行う。

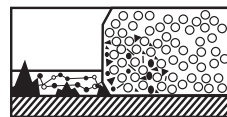


1スパン終了毎に、かるく水で洗い流す。
夏場 乾いてこびりついた場合は、**ファイナル1**で
強めにこすると、とれる。

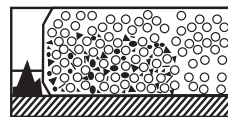
トラップ粘土の秘密



すべりやすい状態（水+ピュアアップ4）で
上をこすってもコンパウンドは
効かないのでボディを傷めません。



トラップ粘土が鉄粉等の
上を通過する時。



粘土がかきわけられて
鉄粉等のみを強力にけずり
取ってくれる。

作業上の注意

- ・鉄粉のように固くとかってついていている物は取りやすいが、ペイントミスト、
樹液などさわってもあまりザラザラしない物は取りにくい。
- ・鉄粉などは上面にのみついていている場合がほとんどなので、
状況を手で確認して、必要な部分に対してのみ行えばよい。
- ・新しい車、濃色車の場合は特に軽く作業する。
- ・地面に落としたり、保管状態の悪い粘土は捨てる。（傷の原因となる）
- ・作業は原則的に日陰で行う。

水垢のある車

施工早見表

前洗い → 水垢取り → フォーミュラコーティング → 拭き上げ

爆ツヤ

または

爆白ONE

水垢取り

目的 水垢を取る。

- ### 作業上の注意
- ・ 特に淡色車と白色車にお奨め。(カラー車もOKだが乾かさないようにすること)
 - ・ 手袋をはめて作業すること。(爆白ONEの作業時のみ使用)
 - ・ 脱色する場合がありますので、着衣につかないように作業すること。
 - ・ 強力なので撥水ガラスコートをしてある車の場合、窓ガラスに液だれさせると撥水加工も落ちてしまう場合があります。

使用ケミカル

爆ツヤ

爆白ONE

どれだけゴシゴシ擦ってもキズが付くどころか、むしろツヤが出るほど傷めない水垢除去剤。頑固な水垢も力を入れずに容易に除去することができる。強力洗浄剤です。



おすすめの作業手順

天井・トランク・ボンネットの上面から作業すると良い。着衣につかないようにする。



① 水洗い洗車

② ボンネット半分程度に隙間無く塗り広げる

③ 軽く スポンジを動かしながら水垢を崩す

④ 爆ツヤ または 爆白ONE を泡とラ・モップで洗い流す。細かい部分まで、きちんと洗い流す。

②、③の作業を全体に施工する。
爆ツヤ の場合、強く擦っても良い。(むしろツヤが出る)

爆ツヤ または 爆白ONE を青スポンジにとること。ボディに直接つけない。

水垢取り終了後、
ホワイトロン
 でコーティング(P11 を参照)
 拭き上げ



- ①a 水垢取り兼コーティングをしたい場合
- ①b **爆ツヤ** または **爆白ONE** を使用した後

ホワイトロン コーティング

目的 塗装面を保護被膜でコーティング

使用ケミカル

ホワイトロン

基本性能はキーパーアップファイナル1に準じたものですが、特に水垢などの汚れに対する清浄性能を強化アップしたものです。簡単な水垢取りを伴ったキーパーコーティング作業は、これだけでOKです。



対象車体色	白色車 淡色車
塗装面の状態	軽い水垢ならそのまま。強度の水垢は爆ツヤまたは爆白ONEで落としてから作業する。

スポンジ
赤

①a
水洗い

①b
**爆白で水垢を取り
よく洗い流してから**

- ② 水をよく絞ったスポンジに、**ホワイトロン**を上から下までまんべんなく2往復程度スプレーします。
- ③ ボンネットの半分程度に隙間無くきっちりとケミカルを伸ばし、しっかりとフチを決める。隙間無く伸ばさなければ被膜はきちんと形成されないのによく注意しながら施工する。



- ④ スポンジをよく絞り少し力を入れて汚れを落としながら被膜を定着させます。



- ⑤ スポンジを裏返してコーティング被膜がきちんと定着しているかを確認しながら被膜カスを取り、しっかりとフチを決める。



▶▶▶ ②～⑤ を繰り返し、1スパンずつ作業する。▶▶▶

拭き上げ

- ⑥ エアガンで隙間の水を追い出し、乾いた**快洗タオル**と水をつけ固く絞った**キーパークロス**を両手に持ってあら拭きする。
- ⑦ 最後に拭き残しがないか、**快洗タオル**と**キーパークロス**を用いて、確認しながら仕上げを行う。

❗ 爆ツヤ・爆白を使用した場合よく水で洗い流さずに**ホワイトロン**を使用するとうまく定着しない。あるいは弱い被膜になるなどの状態になる。

プロの内窓拭き

特徴

KeepPreの内窓拭きは、エタノールを使用し拭き上がった後にスジを残さない。

使用ケミカル

内窓用クリーナー

この内窓用クリーナーはエタノールを主体とし、工夫を加えた業務用です。窓拭きの筋残りが出ないようにしています。



① 絞ったタオルに直接内窓用クリーナーをスプレーする。



② まず、たて拭き。



③ 横拭き。



④ 隅を拭く。



⑤ 乾拭きで仕上げる。



作業上の注意

- ・ガラスに直接かけないこと。
- ・ダッシュボード・パネル周りには使用しない。
- ・ルームミラーを動かさないように拭く。
- ・サイドガラスは窓を少し下げて上端をきちんと拭く。
- ・熱線入りリアガラスは、熱線に沿って慎重に作業する。
- ・ヤニのひどい車は、あらかじめ軽く水拭きをする。
- ・フィルムの装置面には使用しない。

(c) KeepPer Giken. All Rights Reserved.

ホイールクリーニング

使用ケミカル: プレーキダストクリーナー



鉄粉除去
プレキダスト除去



水高圧スプレー

洗車
前に



下回り洗浄の前にホイールに「**プレキダストクリーナー**」をスプレーする



汚れを目視し、ホイールのセンターからしっかり水高圧スプレーで洗い流す。

使用ケミカル: ホイールクリーナー



アルミ
ホイールの
汚れ落とし



専用スポンジ

洗車前
後どちら
でも可



アルミホイールにスプレーする。
(熱い時は水で冷やしてから)



すみずみまでこする。



再度水でよく洗い流す。

ホイールコーティング
施工車の場合は、
コーティングを落とさない
プレキダストクリーナーを
使用する

鉄粉取り

使用ケミカル: アイアンイーター



鉄粉除去の
ケミカル

洗車
後に



濡れたボディに**アイアンイーター**をスプレーする。



日陰で乾かない程度に放置する。(5~10分)



水で洗い流す。

アイアンイーターは
鉄粉だけを溶かす。

残った固着物は
ピュアアップ4
+トラップ粘土で
除去する。

バンパーモールクリーニング

使用ケミカル: ベストブラック



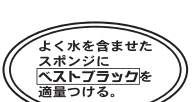
ブラック
バンパーモール
の白汚れ除去

青スポンジ

仕上げ
の時に



こびりついたワックス・コーティング剤で白くなった無塗装のバンパー・モールに水をかけてから使用する。



よく水を含ませた
スポンジに
ベストブラックを
適量つける。



汚れているバンパー・モールをよくこすり洗う。



乾かないうちに洗い流し、拭き上げる。

虫取り

使用ケミカル: インセクトリムーバー



虫取り

青スポンジ

洗車
前に



水をかけたバンパーに**インセクトリムーバー**をスプレーをする

2~3分放置

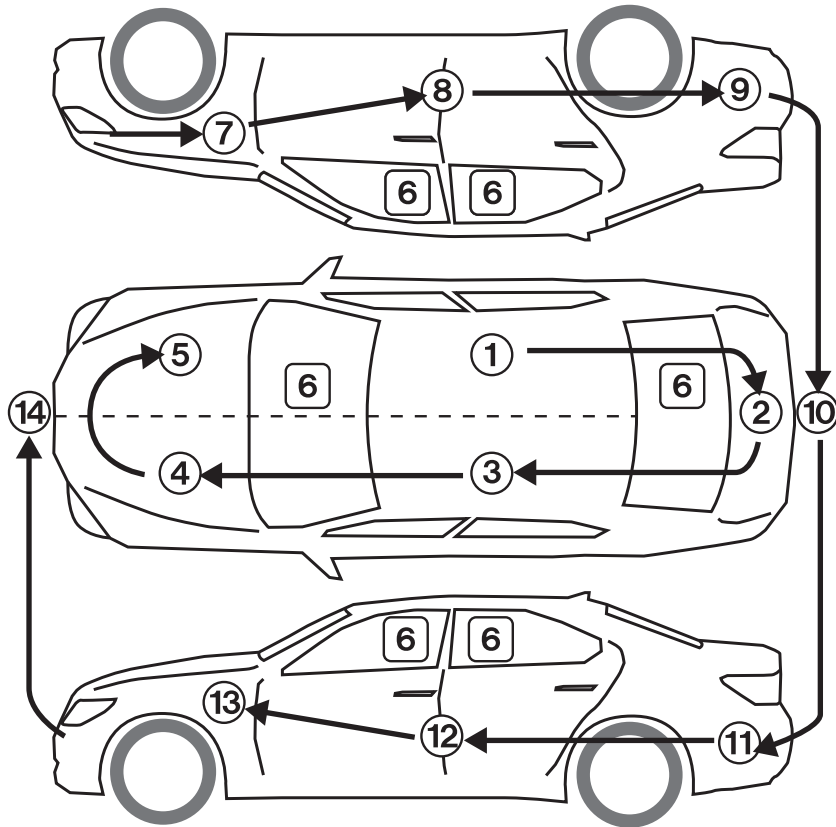


青スポンジで虫を崩すように擦り落とす。



同様の作業をドアミラーなどにも行った上、水などで洗い流す。

ピュアキーパー基本作業



スポンジの正しい押さえ方

被膜を塗り広げる時、ならす時



ボディに力をいれずに手をベタッと置いてみる。



そのままの感触でスポンジの上に手をのせる。



このままの状態でも力をいれず塗り広げたりならしたりする。被膜をならす時は、さらに力を抜く。

被膜を入れる時



指先を体の内側へ向け手首を曲げる。



スポンジ全体を押さえる。(スポンジが半分位へこむ位の力)



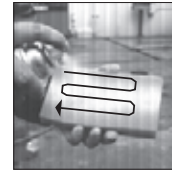
リズミカルに汚れを取りながら被膜を入れる。

ダメな押さえ方

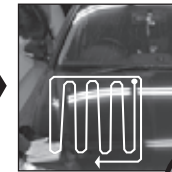


スポンジをつまむように握持たない。

水平面の基本作業



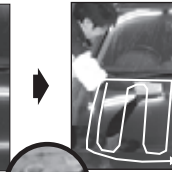
スポンジにまんべんなく2往復スプレーする



ボンネット半分程度に隙間無くぴったりケチカルを伸ばし、しっかりフチを決める。隙間無く伸ばさなければ被膜をはぎもと形成されない、よく注意しながら施工する。



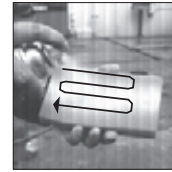
絞る



絞る

スポンジを裏返して、コーティング被膜がきちんと定着しているかを確認しながら被膜カスを取りしっかりとフチを決める。

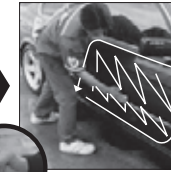
側面の基本作業



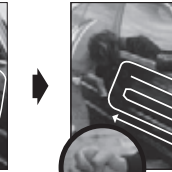
スポンジにまんべんなく2往復スプレーする



一方向に塗伸ばしながら手首をかえし、フチをとる



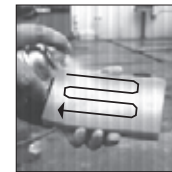
押し出すように、斜め下方向へ汚れをとりながら、膜を入れて、フチをとる。その際、ドアノブetcも処理する



絞る

スポンジを裏返して塗り広げた方向に軽くならしてフチをとる

細かい面の基本作業



スポンジに2往復スプレーする



一方向に細かい部分にも気を使いながら塗り伸ばす



絞る



絞る

汚れを取りながら膜を入れる。この際、細かい部分もきちんと作業する

スポンジを裏返して、同一方向に軽くならす

作業をする上での注意点

丸くすらない
ケミカルをボディに置かない

BAD
スポンジを強く押えすぎない

GOOD
スポンジの正しい押え方
スポンジが半分つぶれる程度

BAD
スポンジをつまんで作業しない

GOOD
ボロボロのスポンジは使わない

GOOD
ケミカル・洗車用品は常に整頓しておく

BAD
トラップ粘土は、乾かないように専用容器で保管する。落とした物は使用しない。(車を傷つけるおそれがあるため)

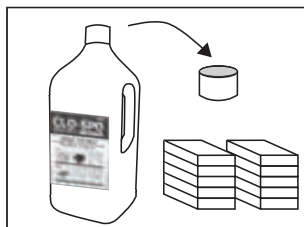
キレイなスポンジを使いましょう

バケットソープで洗ってもキレイになります。

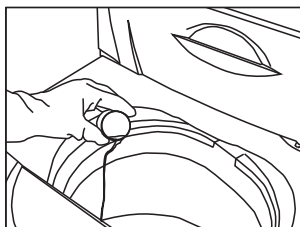
でも、たくさんのスポンジを洗っていると、時間と手間がかかります。クロスボクリーナーなら洗濯機で簡単に洗えます。

スポンジの洗い方

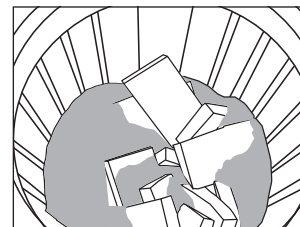
KeepPerクロスボクリーナー使用説明



スポンジ10枚に対し
キャップ1杯(約25cc)
※一度に洗うスポンジは最大30枚まで



①スポンジ全体が9割浸る程度の水にキャップ1杯の洗剤を入れます。



②洗濯を15分程度
すすぎ洗いを10分程度



使用ケミカル

キーパー
クロスボクリーナー
スポンジ用ポリマー分解洗剤

●ピュアキーパーの作業で汚れてしまったスポンジを洗濯機で簡単に洗える洗剤。

洗濯方法	水量	使用量の目安
洗濯機	150 (目安)	25cc (ボトルのキャップ1杯)
手洗い	50	

キレイに洗うコツ

- 水の変わりに30℃程度のぬるま湯を使用するとより効果的です
- 10ℓに1杯くらいの割合の洗剤を入れた水(お湯)の中に、予め20分程度浸け置きをするとより効果的です。
- 汚れのひどいスポンジを洗う場合は
原液～5倍に希釈した洗剤でもみ洗いするとより綺麗に仕上がります
- 洗濯機で1度に洗うスポンジの量は、一般的な家庭用洗濯機(45ℓ対応型)で30枚まで。多すぎると、汚れが落ちないとともにすすぎ切れません。

使用上の注意

- スポンジと他のもの(タオルなど)と一緒に洗わないようにして下さい。
- 色落ちしやすい繊維類には洗剤を使用しないで下さい。
- 手もみ洗い時ゴム手袋を使用することをおすすめします。

ピュアキーパーに関わる注意事項

注意1 < 車はきれいにするほど「あら」が見えてくる。 >

塗装についている老化したワックスなどの汚れが水輪紋・こすりきず・へこみ傷などを見えにくくしている場合があります。ピュアキーパー施工で汚れを除去することによってそれがむしろ見えやすくなっていく場合があります。

とくに水輪紋は施工前にお客様が気が付いていなかった場合があるので、見積り時点でお客様に告知しておく必要があります。

水輪紋は、酸性雨が塗装面あるいはガラス面に付着しているワックスなどのシリコン分を焼き固める現象などで、施工後は、むしろ水輪紋が付かなくなります。

しかし、施工前についていた汚れたワックスに水輪紋が隠れたりしていると、

汚染除去によってかえって目に見えてくる場合があります。

確認できた段階でお客様に報告しておくことも必要です。

注意2 < ドアミラー・ゴムからの汚れのタレ >

ピュアキーパー初回ケア施工後まもなく雨が降った場合にドアミラーの下の部分とか、ウェザーストリップのゴムの部分から、汚れが垂れたように汚れる場合があります。

これもやはり酸性雨が主因です。初回ケアしたばかりの時は、ファイナル1被膜の防汚能力がまだ完全ではないので、酸性雨の中に含まれている汚染物質が被膜状に付着しやすい傾向があります。

特に汚染された酸性雨が予想される地域や時期（四月から九月）は、降雨後、早めの洗車をお勧めすべきと思います。

酸性雨によって付着した汚れは、ファイナル1で比較的簡単に除去できます。

注意3 < 撥水（水はじき）の問題 >

ファイナル1被膜は油ではないので、ワックスによる撥水とは性質が異なる。つまり、ワックスの場合色々な汚れが付着しても、汚れがワックスの中に浸透して（水垢）ワックス分が表面に出ている状態で撥水性を維持させるが、ファイナル1被膜は、汚れをその表面で防御してしまい、汚れが付着すると撥水が鈍くなってしまいます。汚れが付着してしまう前に洗車をすれば（つまりこまめに洗車していれば）このような事はないのですが

汚れが付着して撥水が鈍ってしまった車でも、洗車をすれば撥水はほとんど復活します。ただし、洗車機などで洗車をしている間はまだ撥水しません。洗車が終わって拭き上げが終わった時点で撥水が戻ります。

洗車機を通っている間、水がベタツとしていますので心配になってしまうかもしれませんが大丈夫です。

撥水効果というのは、新車時の塗装が見せるような、塗装面から水が捌けていくような状態がもっともよいのですが、とにかく水が弾いていないと納得しないお客様もいる事は事実です。できればピュアキーパーの清潔感のある程々の撥水のよさに気付いてほしいと思います。

注意4 < ファイナル1被膜の「のり」が悪いとき。 >

ファイナル1被膜の乗りが悪いと感じる時があったら、次の原因が考えられます。

- 1、下地処理が充分でないとき
例えば、汚染除去を施したら塗装面がしっかりしたように見えたもので、塗装面の状態が予想外に劣化していて、ファイナル1被膜が定着しづらい場合があります。その場合、再度ファイナル1の作業を行ってください。
- 2、硬い蠟被膜タイプのコーティング剤が使用してあった場合
最近、撥水を強調しているコーティング剤が流行ってます。このタイプは固い蠟被膜でファイナル1被膜を定着しづらくしている場合があります。（このケースと考えられる場面に出会ったらお客様に「前になにか、強いものを塗っていましたか？」とお聞きしてみるとよい。）
爆白ONEまたは爆ツヤで強く汚染除去することが必要です。
- 3、急に気温が上がる時期 その1
塗装面の凸凹部に詰まっていた油がじわじわ浸出している場合、汚染除去が思ったより大変な場合がある。その場合、爆白ONEまたは爆ツヤで汚れを軽く浮かし取ってから被膜をかけます。
- 4、濃色ソリッド車で特に紺色・赤色の場合、顔料が塗装表面に多く密集していて表面が微妙に安定してない場合がある。汚染除去と埋め込み（再度ファイナル1の作業）を行うと、すんなりファイナル1被膜を定着できます。
- 5、下地処理剤の洗い流しが充分でない時
被膜がのりにくい場合があるので下地処理剤はよく洗い流すこと。

色々な種類の固着汚染物質 をプロの道具とプロの技術で正しく確実に取る。

1 鉄粉

鉄道の近くあるいは鉄工所の近くに駐車している車両にとくに顕著に見られ、汚染された塗面を触ってみると、ざらざらしていてすぐ解る。触った時の比較的とがった感じのするものが鉄粉である。顕微鏡下で見ると付着後の経過時間の差によって、乗っているだけのものや、錆びて溶解しベタッとしているもの等、容易に判別できる。

特に劣悪な駐車状況でなくても、走行中にブレーキパッドの粉などが鉄粉状に付着するので、程度の差こそあれ、一般的に見られる汚染である。

鉄粉の除去はトラップ粘土(青)とピュアアップ4をもちいた方法がベストである。

強烈に付着している場合はアイアンイーターを使用し養生後トラップ粘土での除去を行う。シュウ酸系の化合物を用いた方法もあるがと層に悪影響が多いので避けるべき。

2 タール・ピッチ・カーボン

走行中に路面のアスファルト・タールが跳ねて、車体に付着した物である。

鉄粉取り・水垢取りなどの作業中に取れてしまう場合があるが、確実に除去するためにタールリムーバーを用いての除去を推奨する。

特にフェンダーのタイヤ付近ドアの下半分、ステップは多く付いている場合が多いので特に気をつけて作業を行うと良い。

3 鳥の糞・虫の体液

小砂などが混入している場合が多いので、水あるいはインセクトリムーバーなどで浮かせて上から軽く叩きながら除去するとよい。(ウレタンバンパーなどに付着しているものは擦って取るしかない。)

特に鳥糞には色々な種類があり、目で見ただけではなかなか判別にしにくい、中に酸性度の非常に高い物があり、それが塗装面を割って深く侵食することがある。特にクリア塗装では、深刻に外観を呈すことになり、侵食された塗装を除去し塗装をしないか復元の方法は無い。

4 樹液

樹液は95%まで水に解けてしまうものだが、針葉樹の樹液は一般に松ヤニと言われているような油性分の強いものがあり、水では洗い落とせない。

内窓クリーナーで除去するのが良い。

5 ペイントミスト・建築塗剤 (車両保険などの対象になる)

塗装工事現場付近に駐車していた場合によく見られる。

吹き付け塗装のペンキ・建築塗剤などが飛散して、固まり切らない状態で塗面に乗ると、汚染として塗面に固定してしまう。

塗面に乗った時点でのペンキなどの乾燥状態の差によって性状が違う。

ある程度乾燥していれば、比較的丸い状態で接点が小さく簡単に除去できる。

シンナーが残っている場合は平ら、あるいは尾を引いたような状態で付着しており、除去難度は高くなる。

さらにシンナー分が多く残っていると、シンナーが塗面に浸透している場合すらある。

汚染除去の料金を決定する時点でよく見極めておかないと、採算が取れなくなる。

又、シンナー系の溶剤を使用したり回転パフで削り取ってしまう場合がほとんどである。

とは決して考えてほしくない。修復不能の傷を付けてしまう場合がほとんどである。

除去方法はトラップ粘土とピュアアップ4で削り取る方法をおすすめする。

除去後は塗装状態に応じてポリッシング作業行い、コーティングを行う。

6 水シミ

濃色車によく見られる水滴状の白い輪郭がそれである。

水シミは塗装面に残った水滴(水道水や井戸水)が蒸発する際にでき、原因として水滴に含まれるカルシウム、マグネシウムなどのミネラル分が蒸発中に水滴の外周に濃縮され、白い付着物の推積跡として発生する。

塗装面やガラス面に付着した水シミはすぐに洗えば除去できるが、放置すると非常に硬いものとなりコンパウンドで磨いて除去する。

また水シミは新車納車に施工されるガラス系のコーティング被膜上に固着するケースが多い。当社のクリスタルキーパー、ダイヤモンドキーパーもガラス系コーティングであるがハイブリッドレジジンによる二層構造により、水シミが固着しない。また、万が一付着した場合でも非常に軽度でありメンテナンス時に手作業で簡単に除去することができるなど、水シミ問題を解決している。また、ポリマー系のキーパーコーティングは、比較的柔らかい被膜なので出来た水シミは、その被膜を入れ替えることで除去し易い。対策としては、小まめに洗車することやキーパーコーティングを繰り返し施工することである。

7 コーナー部分におけるWAXカスなどの堆積物

キーパー施工の前に、WAXの拭き残しカスが堆積している場合がある。

ほとんどの場合はやわらかいので、歯ブラシまたはスポンジの角に爆白ONEを付けて除去する。このとき強く擦りすぎると傷をつけてしまう可能性があるのできちんと目で汚れを確認しながら作業すること。